

校種・教科名	家庭	家庭総合（3年）	単位数	2単位
<p>学習到達目標</p> <p>1. 人の一生と食生活・消費生活・保育などについて学ぶ中で、基礎的・基本的な知識と技術を習得する。</p> <p>2. 生活のなかで課題を見出し、それを解決するための手だてを考えるとともに、次のステップの実践へとつなげていく。</p> <p>3. 自分らしい生活観・価値観を創造していくなかで、自分の個性にあったライフスタイルを見つけていく。</p> <p>4. 多様化する現代社会において、男女がともに主体的に生活を営み、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育成する。</p>				

学期	学習内容	時数	学習のねらい
一 学 期	<p>オリエンテーション</p> <p>5章 食べる</p> <p>第1節 人と食生活</p> <p>第2節 栄養と食品</p> <p>第3節 食品の選び方</p> <p>第4節 食生活をデザインする</p> <p>第5節 献立と調理</p>	<p>1</p> <p>39</p> <p>(4)</p> <p>(16)</p> <p>(4)</p> <p>(3)</p> <p>(4)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3学年で学習する内容について把握する。 ・食物の役割を認識し、食が心身を育む上でも大切なものであることを理解する。 ・各国、各民族の食文化は自然環境や社会と深くかかわっていることを理解する。日本食の基本「一汁三菜」を理解し、わが国の食文化を知る。 ・食事調査などを通して現代の食生活や各自の食事の問題点について学習し、食生活のあり方を考える。 ・食料自給率の低下と対策について考える。 ・栄養所要量と4群別摂取量の目安について理解する。 ・栄養素の種類と働きを理解するとともに、それぞれの栄養素を多く含む食品の特質を理解する。 ・生鮮食品の選び方や食品表示の見方を学習し、適切な選択、保存ができるようにする。 ・食品の腐敗、食中毒、食品添加物について学習し衛生的で安全な食生活ができるようにする。 ・日常摂取している食品には、どれくらいの添加物が含まれているか調査し理解する。 ・現在の食生活の傾向を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 ・食物費、調理の効率などを考慮した日常食や行事食の適切な献立作成ができようにする。 ・調理法の要点を理解するとともに調理の基礎技術を習得する。
二 学 期	<p>第5節 献立と調理</p> <p>2章 育つ・育てる</p> <p>第1節 子どもの発達</p> <p>第2節 親の役割と保育</p>	<p>(8)</p> <p>15</p> <p>(5)</p> <p>(5)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常食や行事食の食卓の整え方、配膳の仕方について理解し食事のマナーを身につける。 ・生命の尊さへの認識を深めるとともに、子供を生み、育てることの重要性を理解する。 ・青年期の心身の特徴を理解し、この時期の健康管理が生み出される生命に影響を与えることを認識する。 ・乳幼児期は一生を通じての人間の発達の基礎をつくる最も重要な時期である事を理解する。 ・基本的生活習慣の形成や遊びによる社会性の習得について理解する。 ・妊婦体験を通して男女で子育てに関わる重要性を理解する。 ・乳幼児期に形成される親子の心のきずなは、自己への信頼と他者への愛着を育む土台となることを理解する。

	第3節 子供の福祉	(5)	<ul style="list-style-type: none"> 子供の発達や保護者へどのような社会的サポートが必要か考える。 子供を取り巻く現状を新聞記事やビデオを利用して把握しよりよい環境について考える。 子供の最善の利益を守るといったことはどういうことか理解し、それを支えていける力をつける。
三 学 期	第4章 消費を考える	13 (4)	<ul style="list-style-type: none"> 各自が消費者であるという自覚を持ち、意思決定を含む生活力を身につける。 家族は経済のあり方が大きく変化するなかで家計の実態を把握し、経済計画を立てて家計管理をすることの重要性を理解する。
	第1節 私たちの暮らしと経済		
	第2節 消費者の権利と責任	(5)	<ul style="list-style-type: none"> 生活情報の収集には様々な方法があり、有用な情報を取捨選択して収集・活用していくことが重要であることを理解させる。 契約・多様な販売方法や支払い方法・問題商法について理解し被害にあった場合の解決方法も理解する。 消費者信用について理解し、利用に際しては、慎重に行う意識と対応策を身につける。
	第3節 消費生活と資源・環境	(4)	<ul style="list-style-type: none"> 循環型社会を実現していくためには、私たち自身が消費行動について考え、環境に負荷を与えないように工夫していく必要性を理解する。 各自の消費行動と環境問題や資源・エネルギー問題との関連について理解する。
	まとめ	2	

使用教材等		
教科書・・・第一学習社「高等学校 家庭総合」 副読本・・・第一学習社「最新生活ハンドブック 資料&成分表」		
各学期の テスト・ 課題・提出 物	1	テスト (70%)
	学	課題・提出物・授業 (実習) 態度 (30%)
	期	
	2	テスト (70%)
	学	課題・提出物・授業 (実習) 態度 (30%)
	期	
3	テスト (70%)	
学	課題・提出物・授業 (実習) 態度 (30%)	
期		
留意事項		
<ul style="list-style-type: none"> ファイル及び毎時の課題は提出状況と記入内容に重点を置いて評価する。 調理実習は、エプロン頭巾の着用状況と実習態度をチェックし評価に加味する。 		